

しーきゅうぶ東海村は原子力の安全と安心を考えるNPO法人です

しーきゅうぶ東海村



東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の被災地の
1日も早い復興をお祈り申し上げます。

第14号

2012年 3月10日発行

題字：山口欽一

2011年3月11日の東海村の災害対策本部の活動 と今後の防災対策について調査しました。

目次

トピック紹介	1
東海村役場の災害対応活動と今後の防災対策	2～3
お知らせ	4

＜東海村の災害対応活動＞

※震度6弱を観測，15時11分に災害対策本部を設置

- 役場も停電し，非常用発電機で対応
- 災害優先電話2台と衛星電話回線（1回線）で情報収集（FAXは使えず）
- 住民の皆さんがコミセン等に自主避難されたので，避難所15カ所を開設（避難者数：最大3514名，他市町村の帰宅困難者を含む）
- コミセン等とは無線機で連絡がとれた

＜原子力事業所の安全確認活動＞

- 日本原電からは地震発生後30分以内に第1報（原子炉自動停止，外部電源喪失により非常用発電機で冷却中，環境への影響はない）
- 原子力安全協定に従って全ての原子力事業所（12施設）から点検報告を得ていた



被災した役場庁舎(3月30日撮影)



道路の陥没も至るところに発生した(7月2日撮影)

東海村の災害対策本部の活動と 今後の原子力防災

＜実施概要＞

日時：2011年 12月21日 13時半～15時半

参加者：8名

場所：東海村役場 5階 災害対策本部室

＜災害対策本部＞

地震の影響 3月11日の地震で役場は震度6弱を観測した。これは即時に災害対策本部を設置するレベルで、職員はすぐに参集したものの、5階の災害対策本部室は天井の照明カバーが落下する（下の写真）など、すぐには使えない状況だった。災害対策本部の立ち上げは15：11。非常用発電機はあったが、固定電話、携帯電話、ファックスが使用できず、災害時に優先的に接続する携帯電話2台で情報連絡を行った。

※村の非常用発電機の発電量は240kW、燃料満タンで約5日間運転可能。震災時は54時間運転した。フロアの約20%に電力を供給可。



破損し蛍光灯がむき出しになった災害対策本部の照明
(12月21日撮影)

災害対策本部の活動

- ・防災行政無線による広報（津波・大津波警報、避難所開設情報、停電・断水等の情報など）
- ・被災状況確認（学校関係、福祉施設、道路、橋、上下水道など）
- ・消防班：119番通報多数、津波警戒、常陸那珂火力発電所への出動（排気塔作業者救助、津波対応） ※要員不足で支援員を次々に増員
- ・避難所開設（備蓄庫から食糧・水・毛布等を搬送）
※要員不足により支援員を次々に増員
- ・避難所用仮設トイレ、発電機などの運搬・設置



- ・物資調達のため村内店舗や事業所へ職員を派遣
- ・南台住宅一部がけ崩れのため避難勧告、各戸訪問
- ・JR運休を受けて他市町村の帰宅困難者を舟石川コミセンへ誘導
- ・給水車による給水活動
- ・病院への燃料・水補給、避難所への軽油や灯油を搬送
- ・医療班：保健師を各コミセンへ配置

原子力施設の安全確認 日本原電からは地震から30分以内に携帯電話に第1報が入り、原子炉自動停止と環境への影響がないことを確認した。他の事業所からも随時設備の点検報告が入った（震度4以上で設備を点検し、報告する取り決めになっている）。原電から社員が来庁、原子力保安検査官事務所長も災害対策本部におり、国・県・事業所と情報共有できていた。19時19分に津波により海水ポンプ1台が浸水し、非常用発電機が1台停止したが、2台は動いていた。急に温度や圧力を下げることができないため、非常用発電機で電源を確保し、時間をかけて冷却を続け、15日に冷温停止を確認。

＜その後＞

- ・4月5日に原電より津波調査結果の報告を受ける
- ・4月15日に県と立入調査を実施

住民への情報提供 11日の地震後は、大津波警報が出ていたため、津波関連の情報を防災行政無線で流していた。ただし、スピーカーのバッテリーが切れて放送が流れなかった地区もある。その後、住民の皆さんがコミセンなどに自主避難されたので、避難所を開設し、避難所開設の

放送を17時48分に行った。東海第二発電所に関する放送は、12日午前11時35分が最初で、冷温停止に向けて作業中であることを放送した。テレビやラジオへの情報提供は遅く、15日にNHKと茨城放送へ情報を出した。

＜村からの連絡の問題点＞

- ・屋外スピーカーは停電時、バッテリーで24時間使用可能だったが、停電が3日間続いたため、バッテリー切れで放送が聞こえない地区ができた。24年度内に48時間使用可能なものに交換予定。

C：自分は原電の研修センターが避難所だと思っていており、家族ともそこに集まろうという話をしていた。3/11に夫がセンターに問い合わせたところ、「聞いていない」という返事で周囲の住民は団地の広場に集まっていた。これはどうなっていたのか？

A：村では避難所として22施設を指定しているが、自動的に避難所になるのではない。まず、村が避難勧告または指示を出し、それに伴って職員を派遣して開設することになっている。学校やコミセンなどの公共施設は避難者がいるかどうかを把握して、避難所として開設したが、原電や機構などの民間施設は避難所を開設しなかった。公共施設で十分対応できると考えたことによる。

今後の対策 今回の問題を教訓に、現在、まちづくり推進プランで、コミセンの防災設備強化を検討中。すべてのコミセンに

- ①非常用発電機2台（情報通信用とトイレ・給水用、燃料タンク2台も）を設置
- ②外トイレの増設
- ③基幹避難所を中心に食糧や水の備蓄を増やす
防災設備の維持・管理、緊急時の立ち上げは地域住民が中心になるような体制の整備を検討中。

A：今後の課題であるが、食料や水など2～3日分は確保できるようにしたい。今回のように大きな災害時には、役場職員も避難所へ行きたくても行けない場合がある。今回15カ所の避難所を設けたが、今後は基幹避難所を設置して、2～3日の避難に十分対応できるように備蓄をするための倉庫を建設したい。石神小や白方小には倉庫があるので、今後は照沼小、中丸小にも備蓄庫を整備していきたい。

放射性物質対策 村内全域の空間線量率、学校や幼稚園、公園等の測定値をホームページで公開中。基準（ $0.23\mu\text{Sv/h}$ ）を設けて除染を実施中。村で購入した30台の測定器を貸出中。家庭菜園な

どの野菜や土、水の測定も役場内で実施中。

C：1キロメッシュでの空間線量率はどのように測定しているのか？ データはどう選んでいるのか？ 雨どいなどホットスポットになりやすい所は分かってきているので、そこを重点的に測定するという考え方もあるのではないかと？ 農産物については、水のたまりやすい場所ほど高い。村全体として汚染が高そうな所を重点的に調査するなど、汚染実態を把握するための測定方法を検討すべきではないか？

A：1キロ四方の範囲で、公共施設や道路の放射線量を地表から50センチのところで複数箇所測定し、その平均値を示している。家庭菜園でつくった野菜や、土壌・井戸水も役場で測定しており、結果をHPで公開している。最初は全体を把握して、順次局所的な測定を行って、汚染実態を踏まえて除染を進めている。ホットスポットに関しては、まちづくり国際化推進課が線量計を貸し出している。30台の線量計はNaIシンチレーション測定器で測定値に誤差がないことを確認している。やはり、雨どいなど雨水が集まる所、大きな木の下や芝生などの線量が高い。高い場所の土壌を削って、1メートルくらいの深さの穴を掘り、ビニール袋に入れて保管してもらっている。

防災計画の見直し 国や県で見直しが進められているので、その議論を見ながら、東海村としても適宜提案ができるように見直しを進めたいと考えている。

自宅の放射線を測定してみました！

まちづくり国際化推進課から放射線測定器を借り、富士の腰住宅の自宅の中や外の放射線量を測定してみました。決められた方法（地上50センチの所1カ所につき5回測り平均値を出す）で測ってみると、舟石川の空間線量の測定値 $0.066\mu\text{Sv/h}$ よりほとんどの所で高いことがわかりました。

我が家の測定値は、リビング $0.082\mu\text{Sv/h}$ 、玄関 $0.106\mu\text{Sv/h}$ 、庭 $0.128\mu\text{Sv/h}$ 。興味がわいてきて、いろいろなところで測ってみました。社宅敷地内の広場を測ると、 $0.168\mu\text{Sv/h}$ と最も高い値でした。除染が必要な値ではなかったですが、空間線量の値で安心していただいていた私は、いささかショックでした。
（清水朋子）

「しーきゅうぶ東海村」とこれまでの活動について

しーきゅうぶ東海村とは

「しーきゅうぶ東海村」の前身は、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」です。この会は、2003年より「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」プロジェクトの中心的な活動組織として、原子力事業所とのリスクコミュニケーションを行ってきました。2005年2月にプロジェクトは終了。提言する会の活動を続けていくため、特定非営利活動法人HSEリスク・シーキューブの東海村支部を立ち上げました。

HSEとは、日々の暮らしに関係のあるリスク、健康—Health（ヘルス）、安全—Safety（セーフティ）、環境—Environment（エンバイロメント）のことです。

シーキューブとは、私たちが意識して活動している次の3つのCが、支えあうことで信頼と安心の空間ができるようにとの願いをこめて、立方体を表すキューブと呼んでいます。

地域社会—Community（コミュニティ）

対話—Communication（コミュニケーション）

協働—Collaboration（コラボレーション）

これまでの主な活動

1) 原子力施設の安全対策の視察

原子力施設の安全対策について学ぶとともに、市民の目線で問題点の指摘、要望などを伝える活動です。発電所、研究所、燃料加工会社の視察が一巡しましたが、今後も継続的に行っていきます。トラブルなどが起きた後にも詳しい説明を聞く活動をしています。

2) 原子力防災に関する提言活動

防災訓練に参加し、市民の立場で防災体制の充実に向けた提言を行っています。平成21年度は住民の皆さんへのアンケート調査も実施しました。

佐藤隆雄(東海村支部代表)



しーきゅうぶ東海村 会員＆オブザーバー募集

しーきゅうぶ東海村で活動してみませんか？ 原子力事業所の視察活動では、事業所のご協力の下、事業活動の詳しい説明を受けたり、少人数での施設見学ができたり、安全対策に提案をしたり、原子力安全に関わる機会があります。視察に参加できるのは正会員と活動会員の方です。

正会員	入会金	3,000円	年会費	5,000円
活動会員	入会金	3,000円	年会費	3,000円
個人賛助会員	入会金	2,000円	年会費	1口 2,000円（何口でも）

※入会希望、会員種別変更希望の方は、全体事務局へお問い合わせください。

＜オブザーバー制度を設けました！＞

原子力の安全に関心がある方、しーきゅうぶ東海村の活動に意見を言いたい方、ぜひオブザーバーにご登録ください。会費など費用は一切かかりません。登録いただいた方には、広報誌をお届けしますので、気づいた点などがありましたら、お知らせください。その他、しーきゅうぶ東海村が企画する市民講座や対話活動などについてもご案内します。

しーきゅうぶ東海村の活動予定

3月14日(水)13時半～16時半 3月定例会
4月11日(水)10時半～12時 4月定例会
13時半～ 原電見学&説明会
場所は中央公民館を予定しています。ホームページでご確認ください。

＜お問い合わせ先＞

特定非営利活動法人 HSEリスク・シーキューブ全体事務局
〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1
財団法人電力中央研究所 社会経済研究所内
全体事務局担当：土屋智子
電話 070 (6568)8991 Fax 03 (6362) 4977
メール：tsuchiya@criepi.denken.or.jp
ホームページ：http://www.hse-risk-c3.or.jp/